

## 「緊急開催！黒岩知事との対話の広場」

～かながわスマートエネルギー構想の実現に向けて～

平成23年11月24日（木曜）横浜会場

### （知事）

こんばんは。ようこそいらっしゃいました。神奈川県知事の黒岩祐治です。今日はこのお忙しい時間にわざわざ県庁まで足を運んでいただき本当にありがとうございます。今日ここに来られなかった方も、全国にユーストリームで生中継されております。ですから、このへんが疑問だという声がありましたら、ツイッターでどんどん寄せていただければ、皆さんが参加できるという形にしたいと思っています。

実は私、今朝6時過ぎにマレーシアから帰ってまいりました。マレーシアのペナン州と神奈川県が姉妹友好関係を結んでおりまして、20周年ということで行ってまいりました。今日帰ってきたばかりでありますけれども、やはりマレーシアも非常に環境問題というものに対して大変関心を持っているようでありました。神奈川は今こんな取り組みをしているんですよということをアピールしてまいった次第であります。

実はこの県民の皆さんとの「対話の広場」、これは今神奈川県の色々なところで繰り返してまいりました。これには大きく3種類ありまして、定期的にやっている「対話の広場」、その都度その都度いろいろなテーマを選んでやっている「対話の広場」があります。これまた別の機会にぜひご参加いただければと思っております。もう一つ、地域版というので、いろいろな地域を回って来ました。そして、その地域、地域のいろいろな魅力。これをもっともっと魅力を増していきたいと思いますよと、マグネット、磁力を増していきたいと思いますよというテーマでずっと県内7か所回ってまいりました。そしてその7か所回っていく中でも、長い時間は使えませんでした。このエネルギー政策について、私なりにご説明をした次第でありました。それとはまた別に、今日、この回は、エネルギー問題に絞った「対話の広場」であります。

この3月の選挙のときに、私は太陽光発電、これを一気に普及させるんだという公約を掲げて選挙戦を戦ってまいりました。それをこの9月の議会で、新たに「かながわスマートエネルギー構想」というものをご提示いたしました。これが、公約で話したことと、そしてどうしてその新しい政策ということにしたのかといったことについて、県民の皆さんにきちんとご理解をいただきたいという思いから、このエネルギー問題に限って、2時間、徹底的に議論しようということで開催している次第であります。これも実は3回目になりますが、とりあえず今回のシリーズは今日が、とりあえずの最終回ということにしております。

ということで、スマートエネルギーに関する「対話の広場」、早速私からご説明を始めたと思うんですが、そもそも、どうして私が太陽光発電を一気に普及させるんだということを知事選挙に立候補するに当たってお話をしたのかというところからお話をしたいと思っています。

知事選挙というのは、3月24日から始まりました。私の知事への立候補というのは急な話でありまして、3月に入ってから来た話でありました。なかなか決断ができない中で、3月11日の東日本大震災がありました。そういうときに自分に知事をとという声がかかっているということに、ある種、運命的なものを感じ、決断をした次第でありました。実際の選挙が始

まるまで、ほとんど日がないという3月16日に記者会見をして立候補、選挙が始まるまで8日間しかなかったという状況でありました。

そのときに、どんな状況だったかということですが、東日本大震災直後でありました。あの当時は計画停電というのが行われていました。福島第一原発、大変な事故が起きたんだという中で、電力不足、それを何とかしなきゃいけないという状況の中で、計画停電が行われた。そういうときに始まった選挙戦でした。

私は驚きました。箱根に行っても、鎌倉に行っても、人が全然いないんですね。あの頃は、小田急ロマンスカーなんかも止まっていたからね。行って見て、私は選挙ですから、多くの皆さんにアピールしようと思って行ったんですが、全然人がいないという、そういう状況でした。どうしてなんでしょかね、とお店の人たちに話をしました。そうしたならば、「計画停電なんかやっていると、お客さんは来なくなります。」、「温泉入っている最中に停電が起きるかもしれない、そういうときにはお客さんは来ませんよ。」、「外国人のお客さんも全然来なくなっちゃった。」というふうなことを聞いている中で、これは大変なことが起きているんだと思いました。

東日本大震災というのは、そもそも東北地方は大変なことになった、ここを何とかして、我々神奈川も救わなきゃいけない、そう思っていました。ところが、実際に県内を歩いてみて、これは東北だけの問題じゃないぞと、神奈川自身が大変だと。箱根の旅館業者とお話をしたならば、今のまま行ったら夏までもたないと言われました。旅館にお客さんが来なかったら、旅館は潰れる。この箱根の旅館が潰れたらどうなるのか。そこに納入している業者みんな潰れるかもしれない。そうすると、神奈川の経済は今大変な危機的状況にあるんだということを痛切に感じました。それはもう、ゾッとするような感覚でした。早くしなければいけないって。早くこの電力不足を補わなければいけない。そのときに、一番早く補えるのは何だろうか。それは太陽光発電だ。

私はエネルギーの専門家ではありません。しかしこれも不思議なご縁だなあと良く思うんですけれども、エネルギーの問題で一点だけ、実はずっと仲間と一緒に勉強していたテーマがありました。私は、「太陽経済の会」というのに入っておりました。ある種のシンクタンクのようなものですね。素晴らしい科学者とか経済学者とか社会学者とかが集まっている。そういうグループなんですけれども、そこで、太陽経済、この言葉、何だというと、時代の認識ですね。19世紀は石炭経済の時代だった。20世紀は石油経済の時代だった。21世紀は、原子力ではなくて、太陽経済の時代だ。こういう時代認識ですね。そして、この太陽を使った経済というものを作っていかなければダメなんだというふうな時代認識の中で、ずっと研究をしていたという、こういうグループに入っていたんです。

そして、私はその選挙戦で回ったときに、早くエネルギーを補わなきゃいけない、そういえば太陽光発電というのはすぐ電気が生まれる。ソーラーパネルを屋根にポッと置いた瞬間にもう電気は生まれてくるんだ、スピード感といえば、こんなに早いものはない。福島第一原発、どう見ても、あれだけの大きな事故になってすぐに復旧するということは無理だろう。すぐにどころか、復旧、もう一回あれを動かして電気を生むようになるということは望めないんじゃないかな、そうしたら早く新しいエネルギーを作らないとこれは大変なことになると思ったんですね。

そこで、太陽経済の時代が実は今、福島第一原発をきっかけにいよいよ始まるという、そういう時代になっているんじゃないかな、と思って、仲間をまた緊急招集、そして議論をしました。「これを神奈川でやろう。」、「黒岩さん、それが一番いいよ。」と。「じゃあ、

どのくらいパネルが付けられるだろうか。」と言ったときに、「そんな数字出さない方がいい。」と言う人もいました。でも、ソーラーパネル、太陽光発電を一気に普及させるんだというだけでは、イメージは湧かないし、どれくらいできるのか、仲間を集めて検討したら、「ソーラーパネルはとっても簡単だ。」、「屋根に付けるだけ。」、「神奈川の世帯の半分くらいはできますよ。」という話なんで、「400万世帯の半分、200万戸。200万戸分くらいできるんだ。よし。」ということで、「4年間の任期のうちに、ソーラーパネル、太陽光発電を200万戸分付けるんだ。」ということをお話は口をいたしました。そして、それを出した限りは、絶対自分は逃げられない、そういう思いでありました。

そして私は、一番の危機感は何か、夏の冷房需要に間に合わせなきゃいけない。もう一つ数字を出しました。「夏の冷房需要に間に合わせるために5万から15万戸分作るんだ。」と言いました。そうしなければ、夏の冷房需要に間に合わせる、つまりあの頃は3月から4月、段々暖かくなってくる時期でありました。だから何となく計画停電も収まっていくだろうという感じはあったんですが、夏の冷房需要、また電気をたくさん使う。このときにまた計画停電をやったら、ここで本当に崩壊すると思ったんで、何とか間に合わせよう、夏に計画停電をやらないようにしようと、5万から15万戸分という数字を掲げて選挙を戦いました。

そのときに、街の中で、「太陽光発電だ!」と私がいくら拳を振り上げて叫んでみても、今一つ伝わってないんじゃないかなって思いました。皆さん何となく、キョトンとして見て聞いているという感じを覚えたんですね。なぜなのかな、と思った。そうだ、太陽光発電と言っても分からないんだ、と思ったんです。話を聞いていると、太陽熱の温水器と勘違いされている方が結構いらして、そうじゃなくて、太陽の光が電気に変わるんですよって言っても、光がなんで電気に変わるんですか、と。あっそうだ、分からないんだ。つまり、3月の時点では、太陽光発電というのは、それくらいの認識だったんです。

それで私は、ソーラーパネルを借りてきました。メーカーにお願いして。そしてそれを路上で掲げて、「これがソーラーパネルというんです。」、「これを家に置いたらすぐに電気が出てくるんです。」、「これを屋根に置けば停電しなくて済むんですよ。」、「これを一気に普及させていきましょう。」という話をいたしました。それを訴えていながらも、まだ一つ届いてないな、と思いました。

何でなのかな、と思ったときに、そのときに空気がどんな空気か。あのとき福島第一原発でとんでもない事故が起きたというのが、当初はそれほど皆思っていなかったんですね、振り返ってみると。段々政府の情報が出て来るにしたがって、これはとんでもないことが起きているんじゃないのかなというふうに段々思い始めていた。そうしたときに皆さんの関心は、放射能は大丈夫なのか、原子力は大丈夫なのか、そういう気持ちになってこられた。その気持ちにやっぱり訴えなきゃいけないだろうと思って、これは4月に入ってからだと思いますけれども、選挙戦、真ん中後半くらいからですね、街頭で言ってみました。「脱原発」。

「脱原発」、この言葉を言った瞬間に皆さんの足がぴたっと止まりました。そうしてこっちを見てくれました。「原子力発電所、大変なことになっていますよ。あの福島第一原発がすぐに何とかなると思いませんか。この電力不足が続くんですよ。それを防ぐためにはこれです。」と、ソーラーパネルを見せました。「これが皆さんを救うんですよ。これを一気に普及させていきましょうよ。4年間で200万戸分作りましょうよ。」という思いでお話をしました。そのときの私の気持ちは、危機感です。このままじゃ神奈川の経済が崩壊するという危機感のもとにお話をしました。そして、当選させていただきました。

実は、早くしなければいけない、早くしなければいけない、という思いがすごく強かった。

4月10日に当選いたしました。初登庁は4月25日。2週間あるんですね。2週間の間、待ってられない。早くやんなきゃ。夏の冷房需要なんて、6月、7月に来る。早くしなきゃいけない。という思いで、実は、今だからこそ言っているんですけども、初登庁の前に県庁に夜、入って行きまして、幹部に集まってもらって、密かに会議をやりました。そして、早くやってくれっていう話をしました。そうしたら県の職員も「分かりました。」と言って、やってくれました。

4月25日に初登庁したときには、もう既に、全庁からなるソーラーエネルギーをどんどん普及させていこうという体制が、もう出来上がっていました。早く行くんだ、早く行くんだって。しかし早く行くって言っても、独裁者じゃありませんから、自分の思ったイメージのまますぐにやるっていうことはできない。いくら何でも。それはやはり、きちんとした行政の政策決定プロセスというものとはちゃんと踏まなければいけないということですね。そこで、行政の政策決定プロセスの中にあるのは、外部の有識者の皆さんに集まっていたら、県はこんなことしようと思うんだけど皆さんはどうお考えでしょうか。というふうなことの専門家グループでの意見をまとめてもらうということが必要になります。

これは国でもそうですね。検討会、審議会を作ってそこに検討していただくという作業ですね。この検討していただく作業のことを諮問と言いますね、諮問してそこでまとめていただいた案を返してもらうことを答申と言いますね。答申という案をもとに政策を作っていくということです。そして、もうすぐに専門家の皆さんに集まっていたら、神奈川のソーラーエネルギーの研究会を作っていました。そしてお話をしたならば、その研究会、「1年後に研究会の報告書をまとめましょう。」というんですね。「冗談じゃない。」って言って、「夏の冷房需要に間に合わせるのに、1年間検討してどうするんだ。」と言って、「1か月で報告を出してくれ。」と言った。「1か月なんてあり得ない。」って言うから、「あり得ないことが起きたんだ。だからやってくれ。」と言ったら、「分かりました。中間報告、渡しましょう。」と言ってやってくれました。

あと議会ですよ。議会も5月の半ばに県議会招集されるという。5月の半ば、それまで待ってられないという思いだったんだけど、よく話を聞いてみたら、県議会というものは5月に招集されて、集まって、議会の形だけ整えたらすぐに休会に入る。実質的な審議が始まるのは6月半ばからだというんですね。「冗談じゃない、6月半ばから審議なんかしたら、夏の冷房需要なんか間に合わないじゃないか。」と言って、だから、「議会もとにかく招集されたんだったら、すぐにやってくれないか。」と話をしました。そうしたら、「そんなことは前例にない。」と言われました。「前例にないことが起きているのだから、前例にないことをやってくれ。」と話をしたならば、議会も見事にやってくれました。県政史上始まって以来、5月に招集された議会がすぐにそのソーラーエネルギーを普及させるための補正予算案をすぐに認めてくれました。ということで流れはどんどん加速していきました。

私はとにかく早く早くという思いを持って、「脱原発」なんて言ったときに、メディアなんか注目してくれました。そして、まだ知事の就任前ですけどもですね、4月10日に当選して、4月17日、テレビ朝日、日曜の朝10時からの番組「サンデー・フロントライン」という番組でした、「報道2001」じゃなかったのは残念でありましたけれども、10チャンネルに呼ばれました。そこで話を聞かれた。今みたいに「とにかく早くしないといかんぞ。4年間で200万戸分行くんだ。」という話をしたら、それを聞いていた、テレビを見ていたソフトバンクの孫正義代表が私のところに電話を掛けてきました。「テレビ見ていました、あなた本気ですね。これは絶対に大事なことから一緒にやりましょう。」と言ってくれた。

そして4月25日初登庁、その翌日の4月26日に孫代表と密かに会いました。そして、「国でやるのは遅すぎる。もう地方からやっっていこう。知事連合でいきましょう。」と言って、メガソーラーとって、ソーラーパネルをザーッと敷いていく、そういう大きな発電所のようなものをメガソーラーという、「これを県単位でどんどんやっっていきましょう」と言って、そういう話をした。そして、「10の知事で集まってやっっていきましょう。」というふうなことを実は相談してスタートした。

そうしたならば、この孫さんがこれに関わってきたということが明るみになってきた段階で、大変な注目が集まってきました。そして、孫さんが当時の菅総理大臣に会ってお話をした。そうしたら菅さん、すっかりその気になっちゃって、いきなりサミットに行っって、「1,000万戸作るんだ。ソーラーパネルを。」と言っていました。あれは私の政策をパクッたに違いないと思いましたが。それはパクッてもいいじゃない。一気に流れが盛り上がってきたという感じがありました。

そして、そうこうしているうちに、私は元々言っていた言葉、こういう言葉を使っていた、選挙戦から。「神奈川からエネルギー革命を起こすんだ。」と言って、こういう言葉を繰り返してきました。

実は、革命は始まったという実感でした。さっき言ったように、3月末の時点ではソーラーパネルを見せなければ、ソーラーパネルというのは分からなかった。ところが、その後の流れはどれだけ速いものか。つまり、朝から晩までテレビで太陽光発電のことをやっている、CMもやっていますよ。CM。ソーラーパネルのCM、どんどんやっていますね。それから家電量販店、これもどんどんソーラーパネルのCMもやっているし、家電量販店に行ってみてください。今や太陽光発電の専門の、専用の売り場があります。一気に流れが出てきました。この流れをもっともって持っていこうということでもあります。

その中で私はいろいろ学習をしました。元々は、私の中であったのは、この福島第一原発が壊滅的状态になったから、原子力発電の分の電気がないんだから、早く新しいエネルギーを創らなければいけないと思っていました。でもエネルギーは創るだけではないんだということを学習しました。エネルギーを創ることは、言ってみれば「創エネ」ということですね。

でも、皆さんこの夏のエネルギー危機のときに、まさに皆が力を合わせてやったのが、「省エネ」だったですね。「省エネ」というのは実はエネルギーを創っているのと同じだけの効果がありますね。

もう一つ、「蓄エネ」、電気をためるといいますよね。ソーラーパネルというのは、屋根に付けて、そのときに生まれた電気は、そのときに使わなければ意味がない。使えない。ところがそれを蓄電池にためておくことができる。お日様が照っている間に使わなかった電気を蓄電池にためておくことができる。そうしたならば、それを夜に使うことができますね。そうしたら、夜に発電しているのと、同じ効果になりますね。

エネルギー政策というのは、こういうふうを考えなければいけないんだと私は学習をいたしました。そして、「創エネ」「省エネ」「蓄エネ」、この総合的エネルギー政策というものを考えるべきだと思いました。それとともに、私は知事選挙に立候補したものですから、4年間という任期がありますから、4年間で何ができるのかということはずっと考えていました。

しかし、国はそのエネルギー革命のような動きが出てきて、エネルギーの目標について言い始めました。2030年と言い始めました。2030年にその全体のエネルギーの21%以上を自然再生エネルギーでやっっていこうと、こういう目標を掲げました。そうかと、エネルギー政策

というものは、それぐらいの中長期の長さで考えていく、それを提示するということが大事なことなんだなと思いました。

2030年ではちょっと先なので、2020年度にどこまでできるのか。実は、冒頭で申し上げた、その選挙に出る前、私の検討したグループというものは、「太陽経済の会」という会です。私のある種、私的な勉強会です。中のメンバーはすごい人なんです。どこに出しても通用するすごいメンバーなんです。でも、私的な勉強会であることには間違いない。しかし、もう県知事になったんだから、検討会もありますから、その検討会の座長を含めて、専門家ですから、専門家の皆さんとともに検討しました。「どこまで行けるか。」、そう言ったならば、「2020年度、2009年度と比較してみましょう。」と言った。2009年度は、年間電力消費量が約502億kWhでありました。そのうちの再生可能エネルギー、再生可能エネルギーというのは太陽光発電であったり、風力発電であったり、水力発電であったり、バイオマス発電であったりです。こういったもの、これは今2.3%です。

これを2020年度どこまで持って行けるか。そうしたならば、これがエネルギーを創るだけではなくて、「省エネ」「創エネ」「蓄エネ」、これを合わせて20%以上、ここまで行ける。「省エネ」で4%というのは、ちょうどこの夏、皆さんが経験されたその「省エネ」の分です。これくらいだから何とかできるだろうと。あとのエネルギーを創る「創エネ」と「蓄エネ」、これを合わせて16%、合計20%以上を減らそうという政策にいたしました。そしてこれを9月の議会で、「かながわスマートエネルギー構想」という形で、ご提示したということでありました。これがこの新しい政策になってきたそのプロセスです。

そして、改めて今何が大事なのかという、大きな大原則を掲げてみました。これはおそらく皆さんのお気持ちでも共通して理解していただけるんじゃないかと思います。何が一番大事なのか。まずは「原子力発電に過度に依存しない」ということです。

というのは、福島第一原発はもう使えないですよ、どう考えたって。その事故をきっかけにして、全国の原発はたくさん止まっていますね。定期点検中で止まっているもの、いっぱいありますね。それを動かそうとしたら、住民の皆さんは反対している。気持ちは分かりますね。

私は、反原発とは言った覚えは一回もないです。反原発って言っているのは、原発を全部止めてしまえということ。それは今、すぐには無理だろうと私は思っています。これは私の考え方です。

でも、止まっている原発を動かすには大変高いハードルが必要だ。これは仕方がないだろうと。これまで以上に、高い安全基準で、住民の理解を得ないといけない。なかなか難しいけれども、理解を得られた、それだけの高いハードルを越えた原発は動かしてもいいだろうと私は思っています。

でも問題は、よく考えてください。新しい原子力発電所を造ることができるかどうかという問題です。できると思いますか。私はできるというシナリオが思い浮かばないですね。皆さんのところに来て、「すみません、ここは原発造りますから。」と言って。今まででもあられだけ抵抗していたんですよ。それを「いいですよと、まあしょうがない、やりましょう。」と言って、認めるところ、出てきますかね。そうすると新しい原発ができるということは、ほぼ絶望的だと。

ということはどういうことかと言うとですよ、あの福島第一原発はもう耐用年数を過ぎて、40年超えるような原発だったんです。そういう原発はいっぱいあるんですよ、日本にもね。今ある原発を再稼働させたとしてもですよ、時間の問題ですよ。みんな耐用年数に

近づいて行くんですよ。そうすると、皆近づいて行っちゃったならば、新しい原発ができなければ、原子力発電所はなくなるんですよ。だから、「脱原発」と言っていたのは、もう私は、議論の段階は過ぎていると思っているんです。脱していかなければ、日本の産業、日本の生活レベルというのはキープできない。だから、今は過度に依存しないということですよ。そのうち、「脱原発」になり、そのうちに原発がなくなるという想定のもとに言っています。

じゃあ、原発がそういう状態だったら、元に戻して、もう火力発電所で石炭をどんどん焚いてエネルギーを出していけばいいか。CO<sub>2</sub>がガンガン出てもいいか。まあ、これ、しようがないかとは言えないですよ、やっぱり、CO<sub>2</sub>削減というのは世界的な目標ですから、そうするとやっぱり「環境に配慮する」ということがどうしても必要になってくるということですね。

もう一つ、今回我々が学んだことの大きな一つというのは、我々のこの日常生活、暑い時にはポンツとスイッチ押せばクーラーが効いて、寒かったらポンツと押せば暖房になってという生活が当たり前のものだと思っていたけれども、その当たり前の生活が、神奈川から300kmも離れた福島の皆さんに、あれだけのリスクを負わせながら、我々はその生活を享受していた。そのことを皆学んだ。そうしたならば、できる限り、自分たちが使うエネルギーは、自分たちのところで創っていくべきだろうと。それがエネルギーの「地産地消というものを目指していきましょう」という、これが大きな3つの方針でありました。

こういう大きな方針のもとに、さっきの自然再生エネルギーという太陽光発電、そして風力発電、そして小水力発電、バイオマス発電。

バイオマス発電というのは、例えば、木材のチップ。そういうのを使うんですね。川崎に大きなバイオマス発電所があります。これは、例えば、廃材であるとか間伐材とかを使ってですね、木材を加工して、このチップにしていくと燃えやすいのですね。これを使ってバイオの技術を使ってエネルギー源とします。それから、例えば、コーヒー豆の絞りかすとか、いわゆる廃棄物ですね。そういったものも使っていくというふうなバイオマス発電そういうものもあります。

あらゆるものをやっつけていけば、さっきの大原則にみんな合っていますよね。そういったものを一気に普及させていこうという思いで打ち出したのが「かながわスマートエネルギー構想」という新しい政策でありました。

じゃあ、その新しい政策に変えたっていうことで、なかなかご理解いただけない部分もありました。「選挙の時と違うじゃないか。選挙で言っていたことを撤回したのか。」と。私の気持ちの中には撤回したという思いは全くありません。もっとバージョンアップしたっていうか、本当の知事としての責任のある総合的なエネルギー政策にするために、バージョンアップしたんだと。しかも、政府の目指している2030年という目標を10年早めるのだから、ものすごく高い目標なんです。それを圧倒的スピード感でやっつけていこうというのが、この「かながわスマートエネルギー構想」ですから、この私の気持ちの中では撤回したとか後退したとかいう気持ちは全くない。もっと、もっと前に行かなければいけないというそういう思いでいる。その思いをぜひ、皆さんにお伝えしたいと思っているところであります。

私は、こういうことも言いました。「一気に普及させていくんだ、太陽光発電を。」と。選挙のときに言ったのは、「理論上はタダでも付けられるんですよ。」と。こういう言い方をしました。「タダで付けられると、どんどん普及するだろう。」と。そんなばかな、タダでは付けられるわけじゃないじゃないかって、皆さんそういう目で見えていました。

でも、理論上はそれも可能なんです。こういう話をしました。それが、「かながわソーラ

ーバンク」というこのアイデアでした。これは、何か。ちょっとご説明します。

ご家庭で自分のうちにソーラーパネルを付けたいなと思ったならば、ご相談いただきます。相談窓口を県が作ります。そして、それをパネル業者にお話をします。そうしたら、パネル業者が調査、費用、見積もりをしてくれます。

そして、じゃあ、この値段でいきましょと、契約をしていただきます。そうすると、付けることが決まったら、今、国の補助金、県、市町村の補助金がありますから、この補助金が出てまいります。

そして、協力金融機関、これもソーラーローンというのを作ってくれました。ソーラーローンっていうものを。これも早かったですよ、県内の主な銀行はソーラーローンを作ってくれました。ものすごい速さでした、これも。低利でソーラーローンがあります、これ、ソーラーローンが出てきます。

そうすると補助金とローンを使って、そしてパネルを付けることができます。

ここで設置費用が支払われて、ソーラーパネルが屋根に付きます。

付いた屋根のソーラーパネル。お日様が照って、その光によって電気が発生します。この電気はご自宅で使って、余った分を売電といって、電力会社に買い取ってもらうことができます。

つまり、ソーラーパネルは、お金を生むんです。売電収入がご家庭に戻ってきます。戻ってきたお金をローンの返済に充てます。

この流れがうまくいけば、実は、タダでも付けることができる、ということなんです。理論上はですよ。

だから、これ、いろいろそれぞれ違うわけですよ。大きな屋根のお家もあれば、小さな屋根のお家もあれば、南向きの屋根の家もあれば、いろいろ違いますよ、一概には言えないですけども、これが可能だという話をいたしました。

そのときに、実は、これが本当にタダになるためには、大きな壁が一つありました。それは県の力だけではどうしようもない。これは、国の法律でした。再生可能エネルギー法案というものがありません。今、私が言った、その自分のお家で使って余った電力を買い取ってもらうという、今あるのは、余剰電力買取制度というものです。

じゃあ、これ、国会に出ている法律は、全量買取です。その屋根で発生した電気を全量買い取ってくれるというそういう制度です。そうすると売電収入、どんどん出てきますね。これでいけば、絶対にタダになるということを考えたんですね。

で、「この法律、早く通してくれ。通してくれ。」と言ったんです。

そして、我々神奈川県だけで言っているだけじゃなくて、連合を組みました。これこそ。そして、全国知事会にこれを持って行きました。そして、その孫さんとやっていた自然エネルギー協議会という知事連合ですね、これも当初10の知事でやろうとしたものが、最終的には35の知事が名を連ねました。そして、この再生可能エネルギー法案を通してくれと皆でアクションを起こしたら、今年の8月の末にこの法律が通りました。

ここが実は、本当の意味でのエネルギー革命のスタートなんですよ。

これが、日本にいるとよく分からない。私の友人の金融のプロのところに、あの法律が通った瞬間に、海外のいろんな投資家から話が来た。日本も、いよいよ、そういう時代が始まるんだな。ということになったということなんですね。

ところが、その法律、せっかく通ったんだけど、中身をよく見てみると、全量買取というのはあるんだけど、実は、その一般住宅、これは、余剰電力の買取制度のままに、

実は、残されたんですね。

だから、これはちょっと厳しいなと思ったんですが、実は、しかし、いろいろな知恵が出てくるものなんです。

これ、見てください。大体、一戸建てで屋根にパネルを付けますとね、平均的には、大体3.3kWくらいですね。3.3kWを付けると、条件がいろいろ違いますよ、大体平均にして、200万円くらいかかります。200万円くらい。

で、これ、さっき言いましたね。今は国、県、市町村の補助金制度があります。どれくらいかって言うと、大体平均26.7万円です、今は。

そして、そのときに、どのくらい売電収入ってあるものなのかなって。3.3kWのパネルを付けたら、どのくらい自家消費や売電収入があるのかなって、いろいろ聞いてみました。大体、月1万円ぐらいです。自分のお家で使って、余ったやつを買い取ってもらって、合わせて大体月に1万円くらい。そうすると、年に12万円ですね。今の制度で10年間で120万円。120万円とこれ（補助金）を足して、146.7万円、約150万円くらいです。150万円くらいはなんとかなる。

ところが、200万円パネルがかかるわけだから、後の50万円は、残念ながら自己負担が残ってしまう。全量買取の制度が決まっていれば、これも全部返せたんだけど、残念ながら、一戸建ては50万円の自己負担が残ってしまう。

ところが、ここで諦めてはいけない。50万円の自己負担分をどうすれば、タダにできるか。

実は、パネルの値段が下がればいいということですよ。パネルの値段が下がればいい。実はね、本当に下がっているんですよ、今。本当下がっているんですよ、これ。これ、今表を作っていますけどね。180万円と書いてありますねこれ。1kW当たり、この案を作ったとき、4月の時点、60万円でした。60万円だったものが、パネルの値段が、1kW発電するのに、60万円だったのが、今、54.4万円まできている。150万円だったらあと30万円ですよ。これ、計算してもらった。どこまでいったらタダになるか。

44万円なんです、これが。ついこの間、研究会の報告書が出てきました。44万円。パネルが、1kW当たり44万円まで来ると、ちょうど自己負担なしになる。ゼロになります。ここまで来たんですよ。

そして、これが今どんどん下がっているんですよ。本当に。

なんで、下がっているのか。圧倒的な勢いで、付けるんだ、4年間で200万戸分付けるんだ、と言ったら、そんな馬鹿な数字があるかって。それでもやるんだ、と言っていたならば、そんなにたくさん発注するんだったらと、動いたんですよ。値段は、どんどんどんどん今下がっています。

44万円。これを切れば、タダですよ。儲かるんですよ、これ。返済の、ローンを返済し終わった後は、年金のように自分のところに、売電収入が入ってくるということなんです。それも実は視野に入ってきているんです。そういうふうな時代です。

つまり、私は、革命を起こすと言いました。エネルギー革命を起こすと言ったんです。その、さっき言ったテレビ朝日の番組にもう一回、呼ばれました。また、その話をしたんです。今度は、孫さんも入って来たよという話もして、その場で話をしました。そのとき、聞かれましたよ。「その4年間で200万戸分と言っているけれども、工程表はどうなっているんですか。」と。私もキャスターだったら必ずそう聞きましたね。「工程表どうなっているんだ。」って。私は、そのとき、思い余って言いました。「革命には、工程表なんか無いんだ。工程表は後から付いて来るんだ。」と、言いました。ちょっと言い過ぎたかなと思ったんで

すよね、正直言うと。でも、本当に今の起きていることはそうなんですよ。

つまり、工程表っていうのは、今ある数字をもとにして、全部計画を作っていきますよね。

ところが、足元の数字が、全体が動くことによって、ガラガラガラガラ崩れていっているんですよ。言ってみれば、今、ソーラーパネルは値崩れしているんですよ、パネルの値段が。という状況に今来ているということ。

そして、あのおとき、めちゃくちゃなことを言っていたら。タダで、タダで、と言っても、だって、ほぼ実現に向かっていているということですよ。これは。もうすぐ分かりますよ皆さん、というところまで来ているということなんです。

そして、今までお話したのは一戸建て、一戸建てでずっとお話をしてきました。

でも、一戸建ての皆さんだけが、ソーラーパネルの恩恵を被っても、しょうがないですよ。うちはアパートなんだけれど、どうしてくれるんだ。むしろ、アパート、マンションの方の方が多いわけですから。どうするんだという中で考えたアイデアがあります。

それが、今大きな屋根を持っているところですね。公共施設、工場とか事業所とか、ここに大きな屋根にパネルを敷きます。「屋根貸し」といって、屋根を貸してもらいます。屋根貸してくださいって。この屋根の大きなパネルをみんなで分けるっていうことですよ。

「マイパネル構想」です。マイパネル。そうしたら、私は、どこどこ団地の何号室に住んでいるんですけど、私のパネル、私も買いたいんです、と言ったならば、あそこの近くの工場のある屋根上にある3列目の2段目。これがあなたのパネルです。買ってください。買う。私が買うんです。これ。ここでも売電収入の一部が、その買った人に戻ってくるという。こういう仕掛けをすると、皆が参加できますよね。

で、これをどうやって、その大きなパネルを付けていくのか、「屋根貸し」をしていくのかという流れの中でまた考えた。いま、補助金を使ってパネルが付けられているんですね。でも、補助金はいつまでも続かないですよ、これは。もう、目に見えてますよ、国はもうすぐ補助金を打ち切りますよ。そうしたら、とてどもとてども県も市町村も補助金出せないですよ。補助金があるのは今だけです。はっきり言っておきますよ、それは。じゃ、どうなんだって、それから後は普及しないじゃないかって。

そこで、いろいろ考えた。「市民ファンド」というのを作ります。で、県民、企業、金融機関等々にお金を出してもらおう。出資してもらってファンドを作ります。で、これによって、「屋根貸し」、大きな屋根を借りて、そこで出てくる電気を売電、そして売電収入。これをファンドで上がった配当金を皆で分けようという、こういう形。つまり、民間資金をぐるぐるぐるぐる回すことによって、この太陽光発電を一気に普及させていこうと、こういうふうなことを考えているということですね。これが、私が考えている、新しい「かながわスマートエネルギー構想」というものであります。

こういうことを言っている中では、途中いろいろなことがありました。後で多分ご質問が出るだろうと思いますが、敢えて言っておきますが、あなたが「かながわソーラーバンク」ができる、そうしたらタダになるって言ったもんだから、買い控えた人がいっぱい出てきたじゃないかって。これは、私もそこまでは想定してなかったですね。正直言って、自分の気持ちが先走ったところがありましたよ、それは。でも、今は、ほんとにタダになりそうなんだから。でも、買い控えて言われたときには、そこは正直、そこでもし、例えば業者さんですよ、買い控えて言っている人に対し、いや、今付けた方がいいんですよって言ってくれたときに、皆さんにそれだけのご心配をおかけしたっていうか、ご苦勞をおかけしたことについては、お詫びをしたいって言っている。これは、前も「対話の広場」の場で言っ

たんです。

そうしたならば、メディアというものはね、この全てのことに私がお詫びしているみたい  
に書きちゃうのね。別に、その件についてはお詫びをしていると言っているだけであって、  
この神奈川、太陽光発電を一気に普及させるんだって言ったことを全てお詫びしますなんて  
言ってないですよ、それは。

その買い控えが起きたことについて、じゃ、どういうメッセージを出せば良かったのかな  
って。そこは、今振り返ってみても、ちょっと私にはよく分からないというところがあるん  
ですね。でも、そこで苦勞された方については、改めてお詫びをしたい、という気持ちがあ  
るということでもあります。

これが、新しいエネルギー構想でありまして、そして、エネルギー革命っていうのは本当  
に進んでいるんですよ。ここに来る、さっき、今日もですよ。私のところにいろいろな人が  
やって来られました。そして、今まで我々が全く議論したこともない、聞いたこともないよ  
うな新しいアイデアが、また持ち込まれました。今ね、毎週そういうものを持って来られる  
んですよ。つまり、動いているんですよ、これが。早くしなくてはいけない、共通認識でし  
よ。原子力発電所に頼れない、早く新しいエネルギー体系を作っていくなくてはいけない。  
そのために、動いてきているから。新しい、いろんなもの出てきている。今日来た人、日本  
だけじゃないですよ。いろいろな海外の人も入って来ているんですよ。これ、ぐるぐるぐる  
ぐる回して行って、この大きなエネルギー革命というものを神奈川から本当に成就してい  
きたいと思っているというところでもあります。

私からのご説明は、ちょっと長くなりましたが、以上としまして、ちょっと補足で事務局  
の方からあったらお願いしたいと思います。

#### (司会)

ありがとうございました。では、続きましてお手元にお配りしております「かながわスマ  
ートエネルギー構想」の資料に基づきまして、藤巻環境農政局新エネルギー・温暖化対策部  
長からご説明させていただきます。お願いいたします。

#### (新エネルギー・温暖化対策部長)

それでは、お手元の資料のカラーで印刷をしているものがございますので、この冊子をご  
覧いただきたいと思います。この冊子の中の、今知事からお話があったのが、5ページまで  
でございます。右下にNo. 5と書いてございますけれども、このページまで知事からご説明  
いただきましたので、私はその残りの部分について簡単に補足的なご説明をさせていただ  
きたいと思います。

今、太陽光のお話をさせていただきました。太陽光発電のほかにも、皆さんご案内のと  
おり、風力発電、あるいは水力発電、バイオマス発電、温泉熱など再生可能エネルギーによる  
発電がございます。こうした再生可能エネルギーにつきましても、新たな全量買取制度、こ  
れが適用されます。県内にも、立地条件を踏まえながら、市町村と連携して、こうした普及  
を推進してまいりたいと思っております。

それから、右の7ページに移らせていただきます。2つ目の取組の柱である「省エネ」  
でございます。家庭では、エアコン、冷蔵庫、照明、テレビなどの電力消費量が多い機器を  
省エネタイプのものに切り替えていただく。こうしたことによって省エネ効果が生まれてく  
るところでございます。また、ご家庭での省エネを進めるためには、電気の消費量を計測す

る機器を導入してわかりやすく「見える化」する、こういったことをこれから進めていきたいと思っています。

なお、県では地球温暖化防止活動推進センターで、ご家庭の省エネ診断や省エネナビの貸し出しなどを行っています。お気軽にご相談をいただければと思います。

あるいは、その下の段でございますけれども、これは企業での取組でございます。こうした中小企業の皆さまに対してのご相談も行っておりますので、ぜひご利用いただきたいと思っております。

それから、ページをおめくりいただきまして、8ページでございます。3つ目の取組、「蓄エネ」の部分でございます。近年は技術開発が進みまして、従来よりも小型で大量に電気をためることができるリチウムイオン電池が開発をされまして、電気自動車に現在使われてございます。この蓄電池をうまく使いますと、電気の使用量が少ない夜間に電気を蓄え、昼間のピーク時に使う、こうしたピークシフトが実現できるわけでございます。また、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーは、日照や気象条件によって発電量が変化いたします。蓄電池を使うことによって安定した利用が可能になってまいります。神奈川県ではこうした電気自動車の普及、それから、今後についてはこうした蓄電池の普及、こうしたものにも力を入れてまいりたいと思っております。

私からの説明は以上でございます。失礼しました。もう一個だけ、追加です。

今ご覧いただいたこのカラーの冊子の後ろに、「かながわソーラーバンクシステム参加事業者公募要領」というものを今日、ご参考までに配布をさせていただきました。先ほどご説明したこの「ソーラーバンクシステム」、今事業者の皆さんの公募をさせていただいております。なお、この公募につきましては、今日説明会をさせていただきましたけれども、いろいろなご意見、ご質問をいただいております。記載についての細かいお話等々につきましては、私どものホームページの方でも、今までいただいたご意見については既にアップもさせていただいております。また、技術的なお話等がございましたら、それは直接私どもの方にフォームメール等でお問い合わせいただければと思います。

私からは以上でございます。

#### (司会)

ありがとうございます。それでは、大変長らくお待たせいたしました。ただいまから会場の皆様と黒岩知事との意見交換を始めさせていただきます。まず、発言をされる皆様にお願ひでございます。まずはお手を挙げていただきまして、黒岩知事から指名を受けましたら、係りの者がマイクをお渡しいたします。まずは、お住まいの市区町村名、お名前をおっしゃった上で発言をお願いしたいと思います。このお名前につきましては匿名でもかまいません。なるべく多くの方にご発言をいただきたいと思っておりますので、お一人の発言時間を3分以内でお願いできればと思います。それでは、ここから知事にマイクをお渡しいたします。お願いいたします。

#### (知事)

はい、それではここから質疑応答に入りたいと思っております。今日の参加者においては、全く細工はしておりませんから。こういうところで細工すると、大変なことになりますからね。だから、どなたがいらしているか、私全然分かりませんから。どなたがどんなご意見持っていていらっしゃるか、全然分かりません。でも、できる限り皆さんのことについて、私が答えら

れるものは率直に、逃げも隠れもせずにお答えしてまいります。それでは、どうぞ、はい。

#### (参加者)

トップバッター、どうもありがとうございます。私、元神奈川県民ですが、今日は東京からまいりましたサイトウ ショウゾウと申します。建築家ではありませんけれども、日本建築学会の会員です。元土木会社の友人と考えた案を、今日は「創エネ」ということでご提案させていただきたいんです。名付けまして、「プカプカソーラー作戦」というやつなんです。

発電用のダム湖の水面に、筏をいっぱい浮かべまして、その上にソーラーパネルを敷き詰めます。この方法というのは、カリフォルニアで小規模ですが1か所行われております。それと、大規模ですとフランスとイスラエルで共同研究開発をやっております。

なぜ、ダム湖かと申しますと、すぐ下に変電所が、送電線が来ております。そして、水面ですから、地震の影響を全く受けないと思います。また、部分的ですけれども、水面を覆いますので、アオコを防ぐ効果もあります。

神奈川県には、6つの発電用ダム湖がありますが、水面の総面積は1,271ha。これ、横浜球場の約千倍ですね。渇水期もありますんで、満水のときの水面の3割利用と仮定します。市販のソーラー、変換率17.9%を敷き詰めた場合、計算上で68.2万kW。これは、6つのダムの水力発電能力35.5万kWの約2倍に近いですね。3.3kW使用のご家庭ならば、20万7千世帯にこのプカプカソーラーを分譲できます。

私たちは、その友達とですけれども、耐用年数20年の発泡スチロール製の筏をつなげるといって、現実案も実は持っております。ソーラーは、先ほど知事もおっしゃいましたけれども、どんどん値段も安くなりますし、あと、変換率がごく傍まで、30%というのが来ていると。そうなりますと、さらに約1.7倍の人達に、ご家庭に分譲されるわけですね。

最後ですが、ダム湖にこだわる理由はもう一つありまして、将来の食料争奪戦に備えまして、農地はキープしておこうと。そういうことを踏まえて考えました。

以上ですけれども、より詳しくご説明の機会をいただけたらうれしいなと思っております。

#### (知事)

いや、ありがとうございます。ほんとに、各市回っている中で、いろいろなアイデアをいただくんですね。それで、なるほど、そういうこともあるのかなって発見もありますけど。事務局、何かコメントありますか。こういうお話、聞いたことありましたか。

#### (環境農政局長)

ダム湖の利用については、初めてお聞きをしました。私どもも、今アオコの発生には非常に苦しんでおりますので、一つ重要なアイデア、ご提案かなというふうにも思います。

#### (知事)

はい、ありがとうございます。それは、ちょっと気が付かなかったですね。今おっしゃった中で、私がすごい、発想としていいなと思ったのは、送電線が傍にありますとおっしゃいましたよね。これ、実は大きな問題なんですよ。メガソーラーで付けたときに送電線というのは結構、ある以上の規模を超えると新しくそこを作らなきゃいけないというものがあって。そこのところが、まさに確かにダム湖だったら、すぐありますものね。いや、ありがと

うございます。ぜひ、検討させていただきたいと思っております。

はい、どうぞ。

**(参加者)**

こんばんは。相模大野のときから2度目の参加です。横浜市のナツメといいます。ありがとうございます。

こういう機会をいただき感謝している上での意見なのですが、相模大野の「対話の広場」のときに、リニアモーターカーの話が出ました。私はこの2014年度着工予定のこのリニアモーターカー、JR東海が行うこの工事なのですが、「脱原発」していくのにあたって、リニアモーターカーというのは必要があるのかということがとても疑問です。そして自然をこれ以上壊して、開発をしていくことに行き詰まりを感じます。その点をどうお考えになっいらっしゃるか。あと、現在、リニアの計画はどのくらい進んでいるのか。そして神奈川県、横浜市青葉区と相模原市と聞いていますけれども、どのくらいのお金そのまちに落ちるのかをお伺いしたいのと。あとは、孫さんと会ったということなのですから、いつまでにどのようなパネル、太陽光発電のことを、具体的な目標を話されたのかということ。10の知事とそういうふうに進めるとおっしゃっていたのですけれども、具体的にどこの知事とそういうふうと話されているのか、もし教えていただければお願いします。

**(知事)**

はい、ありがとうございます。

まず、リニアモーターカーの話ですが、これ、最近ちょっと動きがありました。今年に入ってこのリニアモーターカー、いよいよ本格着工ということで国の方で方針が決まったんですね。それでやるということを決めて、じゃあ神奈川県としての問題はどうかといったときは、駅の問題ですね。どこに駅を作るのかとあって、どうもリニアモーターカーは各県に1個ずつ駅を作る、そういう方向にどうもなりそうだとということで、相模原の辺りということでもまだ具体的に決まっていない。

ただ、これに関しては、今までは、神奈川県を通るときは地下を走ります。地下に駅を作るというのは、実は地上駅よりはるかにお金がかかるわけですね。それで当初2,200億円くらいかかると言われていました。それを地元が負担しろと言われていました。そんなの冗談じゃないという話、そんな負担はできないと突っぱねていたら、ついこの間ですけれども、つい先日のニュースですね、地元は負担しなくていい、JR側が負担するから、地上駅も地下駅もそうなるということになってまいりました。

しかし、ご質問の趣旨はそういうことではなくて、そもそもリニアモーターカーというものを作ることが必要なのかどうかということですね。

**(参加者)**

電気を使うものを作る必要があるのかということです。

**(知事)**

ここのところは国策なんですよ。ここのところとは、実はね、これを、なぜ、リニアモーターカーを通すかといったときに、一つの大きな理由としてあるのは、今はここを繋いでいるのは東海道新幹線ですよ。東海道を繋いでいる。東海道新幹線が繋いでいる中で、地

震が起きる可能性があるぞと言っているところを実は通っているわけですね。これがもし起きたときどうなるかというときに、分断されてしまう。そのためには、リスクを分けるために、もう一個の第2の新幹線というべきリニアが必要だろうと、この議論はもう何十年もやってきた議論なんですね。それが今ようやく動き出そうとしているということでありまして。これを今、神奈川だけが通すなどと言って全部止めた方がいいのかどうか、そういう声が神奈川の中で湧き起こって来たときには、我々も考えざるを得ないかなと思いますけれども、今の段階としてみれば、駅がこうなるという中で皆さんがそれを納得されて、次にそれをきっかけにして、まちをどう興していこうかというふうな発想でいらっしゃるのが、今は一番のメインかなと思っていますのでね。しかし、こういうご意見があったということは忘れないでいたいと思います。

#### (参加者)

まちにお金がどれほど落ちるのかは。

#### (知事)

それはこれからですね。私が言っているのは、リニアの駅は、駅ができれば地元が栄えると思うのは大間違いですと言っているのです。降りたくなる駅を作りましょうと言っている。もしあの辺に駅を作るのであったら、相模原で降りたいなというような駅を作るということが大事。それくらい魅力的なまちを作らなければだめですよという話しをしているんですけどね。それによってお金がどれだけまちに下りてくるかというのは違ってくると思いますがね。

よっぽど魅力的なところだったら世界中からお客さんがやって来て、そこでどんどんどんどんお金を使うようになったら、それはまちが繁栄するけれども、そこで駅はできたけれども、何も変わらない、そんな駅はいっぱいあるでしょう。新幹線の新しい駅でも、駅前は何も変わらないというのがいくらかもあるでしょう。あれだったら経済効果はないと思っています。

相模原のあの地域の場合には、県央の場合には、きっかけにして開発していくべきだと私は思っているんですけどね。

あと、孫さんとの話ですね。パネルをどのくらいの目標にしたのか。孫さんとの最初のアイデアというのは、一番最初に聞いた時には、10の知事でやろうと言ったとき、孫さんが1県ずつ79億円出すと言ったんですよ。79億円ですよ。県は1億円だけ出してくださいと言われてました。80億円でジョイントして、メガソーラーを作りましょう。その代わり、メガソーラーの土地を出してください。そして、税金もちょっとかけないでください。こういう条件でやりましょうと言って、同志を募ろうと言って10。だから、孫さんの頭の中の計算は、79億円の10倍、だいたい800億円ぐらいは自分で負担してやろうというアイデアだった。

そのときに10というのは、正確には覚えていませんけれども、大阪はいましたね、大阪の橋下知事はいましたね。あと長野とか高知とか、佐賀もいましたかね。それでやっ払いこうというのが最初のアイデアだった。

ところが蓋を開けてみたら、35も知事が集まってしまった。35も集まったら、79億円ずつ35のところに出すのかとなったら、そこから話が変わってきてしまいました、やはり。それはいくらなんでもできないということになって、自然エネルギー協議会というのは35の知事連合になっていますけれども、いろいろな連絡を密にしながら、大きな目標に向かってやっ

ていこうという、そういう緩やかな集合体になっています。

それとは別にして、一つ一つの県と、これでメガソーラーの場所はここにあるから、ここは一緒にやってみようというの、一つ一つ個別で話をしてみようという話に今なっているところです。これもどんなふうに変ってくるのか、流れを見ないと分からないですけれどね。

でも最初の頃は、孫さんは目立った。そのことによって、大きな流れになったことは間違いないのだけれども、そこから孫叩きが始まりましたよね。金儲けのためにやっているのではないのか。金儲けのためにやっている、それに知事が組むとは何事だと、こういう話も出てきました。

そのとき私が思ったのは、革命を起こそうと言っているのだ。エネルギー革命を。革命というのは民間が付いて来なければ、革命なんか進まない。税金でいくら全部面倒見て、そんなものは革命ではないでしょうね。民間のお金が回ってきて初めて革命ですよ。そのとき、孫さんがパッと手を挙げたわけですよ。だから、孫さんと一緒にやろうと言っているだけの話であって、孫さん以外とやりませんなんて一言も言っていません。そのときまた手を挙げたのは孫さんだけだった。だから、孫さんと組もうと言ったのだけれど、今はもう状況が違ってきますよ。今は既に、いろいろなところが手を挙げています。ということですからね。何も特別な、疑うような関係があったわけではありません。はい、どうぞ。

#### (参加者)

横浜から来たミヤワキと申します。「創エネ」「省エネ」「蓄エネ」の話は非常に興味深かったのですが、少し疑問がありまして。

電力消費量、年間電力消費量を2割カットという話なのですが、電力の場合はピーク時の消費量が肝心になってくるのではないのかなあということと、もう一つは、それに絡んでなのですが、「創エネ」と「蓄エネ」の関係ですね。以前も、知事からはマグネット神奈川の地域版で、ちょっとスマートエネルギーの話もお聞きしたんですけども、だいたい「創エネ」に注力されていて、「蓄エネ」の効率性についての話がないので、もしそれが分かりましたら、お話を伺えたらと思います。

要は、これはもう全て経済性の損得を考えるべきだと思いますので、「創エネ」1kWと蓄エネ1kWとでは、おそらく必要なコストがかなり違ってくるせいだと思うのですが、そのへんをご説明いただければ助かります。

#### (知事)

ピーク時の消費量をどう見るかということ、これが電力なんですよ。

エネルギーというのは1日中ずっと使っているわけではなく、すごく使う時間帯もあれば、あまり使わない時間帯もある。一番使うときに余力がなくなったら、これでもう停電になってしまうわけですね。だから、一番使うときをどうコントロールするかということなんですよ。

例えば、神奈川にはすごい発電所があるんですよ。揚水発電というのがあって、神奈川のかつての大先輩の皆さんはすごいことをやったんですね。2つのダム、湖があって、下の湖から上の湖に夜間電力を使って、水をダーッと上に揚げるんですね。それで、これは安全保障みたいなものです。電力がピークに差し掛かってきて、突破しそうだと思ったときに上から水をドーンと落とすんですね。そうしたら、圧倒的な勢いで上の水が下にダーッと下

りてくる。それを揚水発電といいます。これによってピーク時を守ろうという、このすごい発電もあるんですね。

これから、今言ったような、細かくは言わなかったのですが、いろいろなことが革命という中にはあるんです。今日はあまり具体的に説明しませんでした。が、「スマートエネルギー構想」と言っているのは、実はこれをコンピュータシステムによって管理していこうということなんです。今日はその話、全くしていませんが、ややこしいから。

例えば、今、皆さん、「省エネ」してくださいと言われても、皆さん一生懸命、「省エネ」に協力されているでしょう。でも、本当に必要なのはピーク時が来たときにパッと電気を使わなくすればいいわけですよ。本当は、皆がサッと消せば実はそのピークは越せるわけですよ。

ところが、今、どこで誰がどれだけ使っているのかというのが分からないんですよ、これが。今どれくらいの危機に来ているのかわからないのです。それをICTの力を使って、コンピュータでコントロールするようになると、それが分かるわけです。「あっ、ピーク危ないぞ。」といったら、これとこれとこれとこれを抑えてといったきめ細かい対応ができるようになってくるという、それは今あるエネルギーの姿とはぜんぜん違いますから。そういうことによって「省エネ」「創エネ」「蓄エネ」をうまくコントロールしていこうという話も、今日は紹介しませんでした。が、そういう話もベースにあるということです。

それと「蓄エネ」。非常にいいご指摘だと思うのですが、「蓄エネ」の技術が、ある種、この鍵を握っていると思いますね、これが。

「蓄エネ」というのが、今、あるんですけれども、蓄電池。家庭用はあるんですよ。でもものすごく高いし大きいし、効率も良くない。

ところが、革命というのは、どんどん競争が起きて、どんどんいい物ができて、どんどん値段が下がっていくということでしょう。

この話は、いつも分かりやすく言うために、比較するのは、「携帯電話のことを思い出してください。」と言っている。携帯電話は最初出たとき、どんなものだったかということ、こんなショルダーバッグみたいな大きなものでした。ガチャンと取っていた。これが携帯電話の最初。それがしばらくすると、一体型。一体型といってもお弁当箱みたいなもので、こんなのです。それがあつという間にどんどん薄くなって小さくなって、そして充電の時間もどんどん長くなっていて、そして今やこんな薄くて格好良くて、ただ電話で話すだけではなく、メールも打てる、これでコンピューター、インターネットもできる、これだけで電車の予約からショッピングまでできるという。これ革命ですよ。

エネルギー革命とは、こういうことがエネルギーの世界でも起きるということです。

今、蓄電池の話。同じようなことがもう既に起きているんですよ。こんなにでかくて高かったものが、あつという間にどんどん小さくなっていて、今、値段も下がり始めています。

で、蓄電池の話で言うと、面白いのは、この話をするとう自動車会社が反応するんですね。これね、電気自動車。これは松沢前知事が神奈川県で一生懸命進められた政策ですけどね。この電気自動車っていうのは中にバッテリーがあるんですね。そうすると、ソーラーパネルを付けて、そのお家に電気自動車を置いておくと、自宅で使わなかった電気は電気自動車にためることができるんです。そうするとこれ、電気自動車のエネルギーとして使えるわけですよ。ところが、ここからまた革命なんですよ。もうね、来年には発売されると言っていますよ。この電気自動車の新しいシステム。これ、どういうのかということ、今の電気自動車というのは蓄電したエネルギーは車を走らせることにしか使えないんですよ。ところが、新

しいシステムを付けると、ここでためた電気をもう一回家庭に戻すことができるというんですよ。だから、蓄電池として電気自動車が使えるということなんです。電気自動車、これ補助金もあるから蓄電池そのものを買ってくるよりは安いというんですよ、これは。というくらい動き始めているということですね。

だからこの技術がもっともっと進めば、それこそ夢のような生活に聞こえるかもしれないけれど、もう、エネルギー自立型。究極の地産地消というのは、もう、電線で電気持ってこなくていいですよ、うちの家で全部完結しています、って。ソーラーパネル敷いて、全部蓄電して、それを使っていれば全部完結します、みたいなことだって夢じゃないってことですね。だから、蓄電池の技術というのはこれから本当に今注目されているし、これが鍵を握っているというのは、鍵を握るというのは皆思っていますから、専門家は。だから競争が始まっているんですよ。この流れはぜひ注目したいと思いますね。はい、どうぞ。

#### (参加者)

横浜市港北区のフジモトと申します。よろしくお願ひします。

最初の200万戸という目標の話と、さっきの2020年までに20%っていう計画の関係性がいまいよく分からなくて混乱してしまっただんで、そのへんを一つ教えていただきたいというのが1点。

もう一つ、「かながわソーラーバンクシステム」のスキームの図が出ていますけれども、これ、すごく面白いなと思っているんですが、これをやったときに、現在、実際に太陽光パネルを売っている業者さんがいっぱいあるのと、すごく競合してしまいそうで、なんか下手な喧嘩になってしまうと困るんじゃないかなって、何となく思ったんですけども、そのへんは問題ないのかっていうところの2点を教えていただけますか。

#### (知事)

はい、ありがとうございます。200万戸分という話と、「かながわスマートエネルギー構想」ということに変えたということは、正直言って私は全部自分の気持ちの中の正直なプロセスをお話したつもりです。で、自分の中で学習をしてきましたという話をして。だからエネルギーというのは創るだけじゃなくて、「創エネ」「省エネ」「蓄エネ」を合わせた総合的な政策にしなければいけない。それとともに、4年間、4年間と自分の中で思っていたけれども、4年間だけじゃなくてある程度の中長期的なビジョンも示さなければいけない。という中でどこまでいけるか、ということ、しかも、元々のアイデアは私の個人的なシンクタンクで話を考えた。県の知事として本当の専門家を集めてやってきたときに、じゃ、2020年までにどこまで行けるかという話をしたということで、まずそういう意味でいくと最初に言ったことと、今言ったことは違っているから、だから、新しい、私の中ではバージョンアップだと思っているので、これを皆さんにちゃんと正しく理解して欲しいという思いでこういう会を使っているんですという話をしたわけですね。

#### (参加者)

そうすると、4年後に200万戸ということは、さすがにそれはもう難しいなっていうことは思っているんですか。

#### (知事)

私の気持ちの中で目指していますよ。気持ちの中では、それは。今、だからね、こう言われるかもしれない。「お前、4年間で200万戸分って言ったじゃないか。できなかったじゃないか。もう辞めろ。」と言われるかもしれない。でも、政治ってそういうものじゃないですか。私は、だから、そういう意味でね、つまりね、誰かが体張って、「俺が責任取るから、やれっ。」と言ってやらないと動かないんですよ。これは。だからその危機感が僕にはあったということですよ。「お前、それ言ったのが違うんだから責任取れ。」って。それは責任取らなきゃしょうがないでしょ。それは。皆さんがそう思うんだったら。政治というのは結果責任だと私は思っていますから、という思いですね。

#### (参加者)

個人的には応援していますんで、ぜひ頑張ってもらいたいですけれども、一つね、難しいなと思ったのが、400万戸のうちの半分で200万戸だということですけども、実際、今太陽光付けているのって、一戸建てが基本的で、マンションは今のところ難しい。法律の問題とかいろんなことで難しいと。でも神奈川県に今、一戸建てって140数万戸しかないっていうところなんで、そもそも200万戸って出たときに無理なんじゃないかってちょっと思ったんですけども。そのへんは法律とかもどんどん変えていこうっていう思いなんですかね。

#### (知事)

だから、最初から200万戸って言っているんじゃないかって200万戸分って言っているんですよ。一戸建て200万戸ないんですから。200万戸分って言っていたつもりだったんですが、そういった街頭演説の中では200万戸って言ったときもありますよ、それは。200万戸って。当然200万戸分って言っていたんですけどね。だから、新しい施策がこうなったってことをご理解いただいて、そして前へ進んで行こうっていう思いは全然変わりませんよ、っていうことをみんなと共有したいと思って、これやっているんですね。ということではありますが。まあ、ご理解いただけるかどうかね、いろいろな方がいらっしゃるでしょうからね。じゃあどうぞ。はい。

#### (参加者)

横浜から来ましたオシミ フミといいます。3点お願いします。

1点は今話しましたように、200万戸。これを工場だとか、3kWをいろいろなところへ付けますと、200万戸で割ると、200万戸でなくて、50万戸とか、いろいろ、この、3倍とか4倍とか、5倍とか付けますから、一つのところに。だから一戸建てだけと考えていたのは、それはそのときの時点であって、今は違うように考えていますから、それぐらいの数の、量のものが付いていくのかなっていうふうに私はイメージとして考えています。それでそのとき、どこに付けるのかというと、私のうちは東からちょっと北に向いているんですけど、大体3kWです。大体夏、270から300。でも冬になると100くらいしか発電しないんです。ですから、シミュレーションをしたときに、一体、どのくらいの、何十パーセントのシミュレーションなら付けるのかということをおある程度決めて、80%くらいとか、うちは45から55です。でも、私はどうしても付けたいから付けていますけれど。ですから、そういった相談窓口のところできちっと数字を出すことが望ましいのかなって思っています。そうでないと、あれ、発電しないよ。そうすると、その発電量が減りますよね。相対として。ということで、私は、南、南西、南東以外には付けないということが望ましいと思っています。

それから、2点目は優良な設置業者を作るということで、認証されたものでなければ、ダメっていうくらい厳しいものを作っていただきたいんですね。

それから太陽がらみでは、私はソーラークッキングをやっているんですけども、今一番困っていることは食品衛生法に引っかかって、試食も駄目ならば、販売も駄目ならば、皆さんに味をみてもらうことができないこともあります。食品衛生法でダメだよって言われているので、革命という意味であれば、そののところも工夫して、どこか1か所ソーラークッキングをできる場所を作っていただきたいな、というお願いです。以上です。

(知事)

ごめんなさい、最後のソーラークッキングっていうのは。

(参加者)

ソーラークッキングというのは太陽光でお料理をすることで、それはまだ珍しいことになっているんですけど、一応私は、ソーラークッキング友の会横浜ジャパンという名前を付けてホームページやブログでやっているんですけど、それも、太陽光のソーラーがらみで、何か形にしていだけないかな、っていうお願いをいたしました。

(知事)

私、ちょっと分からないんですけど、ソーラークッキングっていうのは。

(参加者)

太陽光で。

(知事)

ソーラーパネルで。

(参加者)

ソーラーパネルじゃなくて。

(知事)

熱ですか。

(参加者)

熱です。

(知事)

熱ですか。

(参加者)

もう一つ熱はね、太陽熱はお風呂屋さんがいいかな、とか、何かいろいろな革命でいろいろな工夫をして、そこに合ったものを付けるという、そういうイメージでよろしく願います。

(知事)

まさにそのとおりだと思いますよ。私がソーラーパネルって言っているのは何も、ソーラーパネル、一種のシンボルとして言ったのであって、風力発電もあるし、さっきの小水力発電もある。小水力発電というのは馬鹿にできないですよ。神奈川というのは水が非常に豊かな県なんです。川が結構いっぱいあってね、そこに水力発電回すと、相当な電力が出て来るんですよ。でね、せっかくだから今日、何の話で来たのかというと、あまり私、言わないですけどね。せっかくだからちょっと言うと、何の新しい技術が持ち込まれたかということ、皆も知らないかもしれない、スタッフも知らないかもしれないですけどね。

どんな話かということ、例えば、水力発電でモーターを回すでしょ。今までよりもはるかに上手に電気が発生するという、こういうふうなアイデア。風力発電も、こう回っているでしょ。風力発電ももっと付けたらいいと思うんだけど、神奈川はね、人口がやっぱり多いじゃないですか。だから、音がするんですね、ブーって。あれが、住民の皆さん、嫌だっていう人がいらっしゃる。ところがそれもね、すごくいい効率のね、そういう仕組みがもう目の前に見えてきているっていう。ということも出てきている。

だから、いろいろなことがあるのでね、だから今おっしゃった、例えば太陽光っていうのだけでもね、川崎に行ったら既にありますよ。今ある太陽光発電っていうのは、屋根にポンツと載せるだけです。それを集光といって一箇所にも全部集めるんですね。そうしたらものすごく強い電気が発生するというのもあるし。同じように集光して、熱にして熱発電に変えるっていうのも実はある。いろいろなものがあって、そういうのはね、さっき私が大きな原則で言った、「原子力発電に依存し過ぎない」、それから「環境に配慮している」「地産地消」というのが全部合うでしょう。それはいろいろなことで工夫してやっていきたいと思いますよ。

例えば風力発電だって、今大きな風力発電だけだけれど、これからは家庭用の風力発電が出てくるかもしれませんよ。鯉のぼりみたいに、プルルルって回っているようなのが。あれだけでも電気にするようなのが出てくるかもしれない。いろいろなことがあって、それは全部、だから、まさに革命、いろいろなものが出てくる、それをいろいろ使っていきたいと思いますよ。そういうことで申し上げているんですけどね。

ですから、ご自宅の向きがね、どちらを向いているか、屋根がどちらを向いているかで太陽光発電に向いているお家と向いていないお家が当然あるんですね。そのときに、さっき言った「屋根貸し」という制度。「屋根貸し」という制度は何も、一戸建ての人だってマイパネルを買えるわけですから、それは、そうやって皆さん参加していきましょうということ考えていますので、いろいろな知恵を出し合ってやっていくということが、やはり大事ななと思っていますね。

だから、200万戸分と言ったのは、いろいろな、家だけじゃないじゃないか、っていう話っていうのは、工場の屋根っていうのはいっぱいありますよ。川崎の臨海部とか行ったらものすごく屋根、いっぱいありますよ。あそこにソーラーパネルをダートと敷いたらものすごい面積ですよ。で、工場の人に聞いたんですよ。ソーラーパネルを「屋根貸し」で付けることに対してどうですか、って聞いたら、大歓迎ですって言われたんですよ。なぜかといったら、ソーラーパネルを工場の屋根に付けることによって断熱効果が生まれるという。そうしたらこの工場のエネルギーというのは、冷房するためのお金が安くなる。しかも、屋根、屋根なんてお金にならないんだけど、ソーラーパネルを置くだけで売電収入が一応入って

くると。こんなありがたい話はないからやってください、って。そういうリアクションもある。

だからそういうのを組み合わせていきたいと、実は考えているところですけどね。はい、他に。どうぞ。

#### (参加者)

横浜市から来ました、ヤシロと申します。

最初ですね、私は先ほど知事がおっしゃったことを、実は去年、個人的に実現しました。と言うのはですね、持ち出しゼロ、太陽光発電プラスオール電化。で、去年から今年にかけて逆に、2千円毎月プラスになりました。ですから業者さんは、数社からの見積もりをお願いしてですね、で、なんとか環境のために設置したいということですね、最後は押し倒しみたいな形になりましたけど、今そういう状態。ですから去年の時点でそういうことができていたということになります。

で、5つ、私が実際に自分のところに設置した経験からですね、5つ申し上げたいと思います。

一つはですね、なんだかんだと言っても、今こういうご時勢ですから、千円でも2千円でも外に出ていくのは非常に厳しいと。ですから、ストレートに持ち出しゼロで、そういう仕組みでやりますということを明確におっしゃった方がよろしいと思います。あるいは、持ち出しゼロあるいは下手するとプラスになりますよ、と。現実にそういう業者さんっているわけですから。間違いなくできるはずですよ。

それから2番目ですけども、なんだかんだ言いましてもやはりまだ補助金頼みというところがあります。ですから、補助金の、県としてですね、独自にハードル上げちゃうと。要するに今ですとkW当たり60万以下の場合ということをやっていますけれども、例えば55万以下の場合とか。で、それによってですね、対象を広げると。やっぱり補助金が切れるとどうしても控えてしまうということが出てきますので、一つはそういうことがあります。それからもう一つはですね、今の補助金の制度というのは、県が単独でやっているのではなくて、市あるいは町、そこで補助金が出る時にだけ上に乗っかってくると。それはそういう予算の潤っているところ以外のところから見ると非常に不公平感があると。私はある量販店の方からもですね、これはやはり直してもらったほうがいいんじゃないかって言われたことがあります。

それから3番目ですけども、今までの話ですと、太陽光発電が全面的に出ていますけれども、やはりCO2の削減というところからいいますと、プラスオール電化、あるいはバッテリー、さらには、HEMS（ヘムス）とか、全体として進めていくべきではないかというふうに思います。

それから4番目はプロモーションです。なかなか私も、自分の周りの人に太陽光を勧めるんですけども、なかなか理解してもらえない。やっとな身内で、3か月4か月くらい経って、やっとな考えようかというのが実態。ですから県を挙げてプロモーション活動をするのが必要だと思います。

それから5番目。これは知事が先ほど目標を掲げられましたが、「見える化」が必要と思うのです。2020年にここまでということでしたら、毎年、毎年、今年はここまで行ったと。そういうのが励みになると思う。以上です。

(知事)

もう既に持ち出しゼロでやっていらっしやるとはすごいですね。

先ほど、優良業者さんの話で、答えなかったのですが、ちょうど、先ほど紹介もありましたが、今、ジョイントベンチャーという形で、今、募集しているところですからね。それで、県がこの業者さんならという形で、せつかくこういう動きを起こしているときに、県内の業者さんに利益が行かないで、県外の業者さんがみんな仕事を持って行ってしまったら、何も意味がないですからね。そこは、県内の優良業者さんを県が選んで提示したいと考えているところです。

今、補助金頼みになっているということがありましたが、先ほど、紹介した「市民ファンド」を早く立ち上げて補助金に頼らなくても回っていくような仕組みを動かしたいなどやっているところです。

(参加者)

今、知事がおっしゃいましたが、補助金はあると、1万でも2万でも来れば、そちらの方が得だという意識が働いてしまうのです。ですから、私が先ほど申し上げたのは、補助金があるんだったならば、できるだけ薄く、広くというふうに申し上げたんです。

ですから、補助金がないと、補助金はあてにしないと。だから一つのやり方として、補助金の分は、これから予定する分については、全部東日本大震災の地域に送ると。それで、神奈川県としては補助金は考えないということで成り立つ仕組みならばすごくいいと思うのです。

(知事)

そういう補助金の使い方もあるかもしれないと思います。多分、国が打ち切ってくると思いますが、県が普及させていくためには、「市民ファンド」という大きな流れを作っていきたいと思っています。それとともに、それがうまくいけば、パネルがもっと下がれば、補助金がなくても済んでしまうことも可能だし。この話がうまくいけば、タダどころでなくて、年金のようにお金が入ってきてしまうということにもなる。

プロモーションについては、私も一生懸命プロモーションをやっているつもりですけども、これは続けていくしかないですね。

「見える化」ということは大事ですよ。新しい政策を掲げたわけですから、4年間というものを2020年20%と掲げたわけですから、途中がどうなっていますかということをやっばりご報告していかなければならないと思っています。私の感じではこうなっていくと思います。ある程度時間がかかるけれども、途中からワーンとなってしまう。これが革命だと思えます。携帯電話の最後の普及についても、最後にワーンと行ったでしょう。ああいうことではないかと思っています。

(参加者)

横浜から来ました。知事が太陽光発電を起爆材として打ち上げたのが、大きい起爆材となっていると思います。これは大いに評価したいと思います。その上でスマートエネルギーという表現に変わってきておりますが、これはバージョンアップという意味において非常に高く評価したいと思います。そういう意味で、太陽光発電だけではなくて、再生エネルギー、むしろ、今は、太陽光発電より他の新エネルギーの方が大きい割合を占めております。

こういったものをどういうふうな形で県として引っ張っていくのか、そのへんをお願いしたいと思います。

もう一つ。ソーラーバンクをバージョンアップしまして、スマートボンドという表現にした方が、私は、内容的には、ぼけるかもしれませんが、そういうことが一つの施策として必要ではないのかなと。この2点をお願いします。

#### (知事)

この新しいエネルギーについては、先ほど言ったように太陽光だけではなくて、風力、小水力、バイオマスと言っていましたけれども、それ以外にも実はいろいろあるのです。

地熱発電というのがある。地熱発電というのは大きな再生可能エネルギーという期待感があるのだけれども。ところが、箱根はいいのではないかと思うのですけれども、箱根の人は反対している。地熱発電で熱を持って行かれてしまっただけでは、温泉の温度が下がるのではないかと心配されている。ところが、箱根の方から逆提案されたのが、温泉の余熱を使った発電。温泉のお風呂に入ればいいわけです。温泉の湧いているところは温かい。この温度を使って、発電をすることができる。それだったら温泉街も反対しない。

これ、また、面白い話が入ってきて、製鉄所の溶鉱炉は熱い。鉄が溶けているのだから、すごい熱が出ている。あの熱を使って発電しようかという話も出ている。本当にいろいろなものができる。

先ほど言ったけれども、いずれも「原子力発電に依存しない」「環境にやさしい」、そういう意味では、川崎というのは、新しいエネルギーのショーウィンドウになっている。面白いですよ。そういう点では先進性がすごくあると思っていますところですよ。

また、ソーラーバンクという名前を変えてみてはどうかと。スマートエネルギーという形に変えたので、検討させていただきたいと思います。

#### (参加者)

大和市から来ましたサワダと申します。

太陽エネルギーに限らないと言われてはいますけれども、太陽エネルギーについて普及が進むと、大変問題がある。それは総発電量に対して20%を超えると電源の不安定が起きる。10%ぐらいになっているドイツでは、既にその問題が表面化していて、NEDOの技術者は、そういう話をいろいろなところでやっているところです。先ほど、神奈川の総エネルギーが500億kWhという話ですけれども、これはWhに変換すると、大体1万分の1なんですね。つまり、500万kWぐらいが平均的に使われている1日の量だと。そうすると200万户を全部3kWで埋めるとなると、十分100%以上問題になるので、そこまでいかななくても、とりあえずいいんだ。その前に、近くの目標に20%自然エネルギーに代えるわけですから、全部太陽エネルギーでないにしても、その20%の不安定要因、私達は突然停電が起きるとするのは嫌ですから。これが焦眉の急だと思っています。

この問題を大したことがないような言い方をしているのがマスコミ、新聞・テレビもそうだと思います。それで先ほど言われた、いろいろな補助金があるのですが、皆、屋根に載せるだけの補助金になっているのですね。私は、ちらっと蓄エネの話で出ました電池に関しても一体にして、このスマートエネルギー構想を組み立てるべきではないかと。ぜひそれを実現して蓄エネのところにポイントを絞ったイメージでアピールする方が、私は専門家にはちゃんと同意する話になると思います。屋根の上に載せるだけで言っていると早晩20%目

標にしているわけですから、東電とか電力会社が主にこういうことに対して賛成しないのは、この話があるからなのです。不安定化が起きると。なので、ぜひ蓄エネの部分をもう少し膨らませて、蓄エネルギーを含めて構想に組み替えていただければというふうに思います。

#### (知事)

非常にご専門的で、重要なお指摘だと思います。確かにそうなのです。太陽光発電で創ったエネルギーを全部使うと、原子力発電の安定的な供給に比べると不安定だと指摘されている。今、先ほどお話している「地産地消を目指す」という話をしましたが、究極の姿としては、蓄電池とドッキングすれば、送電線にあげなくても、自分の屋根で作った電気を自分で使って、使わなかった時間の電気を蓄電池にためてということをするれば、送電線に流さなくても済む。自己完結するということもできる。太陽光発電だけではなくて、いろいろなものを組み合わせることもできるだろう。地域でまとまってそういうことをやってみる。先ほど、HEMS（ヘムス）というのが突然出てきて、皆さん、びっくりしてしまったかもしれませんが、先ほど言ったコンピューターが電気の使用量を測って、全体にコントロールするということですね、地域でやっていくということもあるのです。それを地域、地域でやっていくことができれば、送電線にあげて不安定になるということは何とか避けることができるのではないかと。そのためには、蓄電という技術が非常に重要である。我々神奈川県としても、「蓄電プロジェクト」というものを作って、それを全面的に支援していこうということを考えて、今、やっているところです。

#### (参加者)

金沢区から来ましたオガワと申します。

今ですね、いろいろな、要するに、ソーラーバンク構想の中で、私は一番効率が良く、早くいくものは何かということになると、やはり家庭の屋根なんですね。家庭の屋根なんです。で、家庭に対してですね、余剰電力だけの買取りという格好じゃなくて、全量買取制度を家庭の屋根にも普及すれば、非常にこれ、償却が早く済むわけです。これが一番送電に対しても非常に簡単なんですね。

ですから、そうすれば、あと一番の問題はですね、要するにパネル業者と敷設業者が何年、本当にギャランティーできるのかと。この点なんですね。やはり、20年ギャランティーできるのか。この体制をちゃんと敷いてやればですね。それで、少なくとも15年はギャランティーするというので、全量買取制度にすれば普及はものすごく、黒岩知事が言っている4年間で私、できると思っていますよ。

ですから、まず、それをするためにはですね、神奈川の場合には、一応、今までの電気消費量、この最大はですね、去年の瞬間が1時間あたり990万kWだったんです。それが今年はですね、22%減の811万kW。しかし、神奈川の場合にはですね、現在の設備で1,150万kWの、要するに、ほとんど火力ですけどね、あるわけです。それで、これが川崎の新設備ができますと1,300万kWという格好でですね、非常に電力の供給源なんですね。県が供給源なんです。

したがって、こういうことをベースにですね、政府と交渉して、それでそういうような供給協力をしている県に対しては、特区みたいな形でですね、全量買取制度を個別住宅にも行うということができたら、私はもう公約は実現すると思いますので、ぜひ、そういう方向で一回もう一度やってみていただけませんか。

それとやはりギャランティーをちゃんと入れないとみんな逃げますからね。ですから、ギ

ャランティーを保証するという制度をぜひやってもらいたいと。

だから、それと、最初にゆくゆくは「脱原発」になるだろうと、私は早く「脱原発」にしないとですね、どうしても最終処分場のないようなものをいつまでも置いておくことはできません。それから、神奈川はこの原発に対してぜんぜん問題がないわけではないんです。活断層地域の久里浜というところにですね、MOX原料を作っている工場があるんですね。もし、このところが、東京湾岸の直下型だとか、それから相模湾の巨大地震とかということが起きた場合に、いつ、福島と同じような状態になるのか分からないんです。だから、私、これ早急に「脱原発」をしてですね、そのためには、やはり、全家庭に付けて、200万戸ぐらい付けばですね、10%ぐらいには相当するわけです。ですから、ぜひその点を実行してもらいたいと思ひまして、期待しております。

### (知事)

ありがとうございます。家庭用も全量買取にしたらいいというのは、まさにそのとおりなんですよね。私もそれを期待していたんですけどね。せっかく法律が通ったんだけど、中身を見てみたら家庭用だけ外されていた。

実は今おっしゃったとおりのことを国に要望しているんですよ。で、そうしてくれと。そしてもう一つ、今神奈川県は国に対して申請しているのはですね「グリーンイノベーション特区」。これ今全県、神奈川県全県で「グリーンイノベーション特区」っていうのを申請しています。もし、国全体として、一戸建て全量買取ができないんだったら、この特区としてやらせてくれと。そうしたらこんなに普及していくということを見せるから。ということを実はまさにお願いしている、ちょうどそのところなんです。非常に重要なご指摘をいただいていると思っております。

そして、パネルの保証の期間ですけどね、これ、どれくらい保証できるかということについて、なかなか今私の口からは言えませんがね。しかし、しっかりとした、我々は県としての施策を進めるという中で、できる限りことを、業者をしっかりと選別して、優良な業者というのを選んでね。その後のフォローというもの、相談窓口というものを、ずっと作っていますから、何かあったら必ずそこにご相談いただければワンストップでご相談に応じるということをしていきたいと思っております。

ただ、その革命、革命と勢いよく言っても、まだ、いろいろなことが起きるでしょうからね。いろいろなことが起きたときに、やっぱり機敏に対応していくという形を、そして皆さんとともに危機を乗り越えていくという形をやっぴりとりたいなと思っているところがあります。

久里浜の原子力施設は、原子力発電所みたいなそんな大きなものではないんですけども、神奈川県内にも原子力を扱っている施設があるということは間違いありませんから、そういうところに対しては、今こういう事故が起きた後でありますからね、今まで以上に安全管理ということを厳しく今求めているところではありますけれどもね。

### (参加者)

平塚市から参りましたイマイ アキヒロと申します。本日はどうもありがとうございました。私は、黒岩知事を大変応援しているんですけども、本日2つのご質問があります。

一つは、「かながわスマートエネルギー構想」を実現するにあたって、抵抗勢力とか障壁となるものが何かあるのでしょうか。

そしてもう一つは、私は平塚から来たと申したんですけれども、ちょうど平塚市の新市庁舎が立て替えている最中でして、その例えば壁とか屋根とか、あと湘南ベルマーレがあります平塚総合公園の平塚競技場のところに屋根を付けて、メガソーラーとかを付けていただくというのをモデルケースとしていただくということができないかと思ひまして、本日質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

#### (知事)

ありがとうございます。「かながわスマートエネルギー構想」に対する抵抗勢力があるのかと言うと、やっぱりね、今回やっぱりその動き始めたという実感があるのはね、平場じゃないからですよ。平場でね、こういうことをやろうとすると、おそらくすさまじい抵抗勢力によってね、知事抹殺という本までありましたからね。たぶん、すさまじいものがあつたと思いますよ。でも、少なくともですね今感じing中ではそれはないですね。つまりそんなことを言っている状況ではないですよ。これは、これはもう、我々は別に電力会社を敵に回しているわけじゃなくて。電力会社ですからね、電力の作り方はいろいろあるでしょ、皆で工夫してやらないと乗り越えられないでしょってやっているわけですから。私はそれを敵に回しているわけではない。ただそういう意味でのおっしゃるような抵抗勢力というのは、私は特に感じてないですよ。

で、今いろいろなご提案がありました、平塚にも「こんな所あるぞ。あんな所あるぞ。」って。今メガソーラーの場所、設置できる可能性がある場所、県内全部洗い出しましたから。そういう中で、一個一個どういうふうにやっていけるかなってことを今リサーチしている最中ですからね。皆さんの中でもここは使えるぞというところがあつたらだんだんご提案いただければそこに付けていこうと思っております。

それから先ほど言った「屋根貸し」というのがあつたからメガソーラーっていう巨大なところじゃなくても、これぐらいのものなら付けられるよってところがあつたらだんだんそれは。これから大々的にそういう「屋根貸し」の場所を募集していきたいと思っておりますから、ぜひ応募してください。

#### (参加者)

相模原から参りました大学生です。

私は今、東京都がやっている排出量取引制度について研究してまして、この制度はとても知事がおっしゃった「創エネ」や「省エネ」を促進するいい取組みだと思っております。ですが、やはり神奈川県は東京都と産業構造も違いますし、なかなか導入は難しいかもしれませんが、来年度からは埼玉県も導入されるとのことで、神奈川県はどのように考えているのかということをお伺いしたいです。

東京都の制度で今私が個人的に問題だと思ったのは、東京都以外で削減したCO2を始めとする温室効果ガスは、削減クレジットとして都内で使える価値が半減してしまうという点です。でも、言ってしまうとCO2にそんな県境はないと思うので、そんな都道府県の境を気にせず統一ルールを持ち出して、一致団結してやっていくべきだと思ひますけれども、実際、神奈川県でその点に関しても、踏まえた上で、どのようにお考えなのかお伺いしたいです。

#### (知事)

専門的なことを勉強されているのですよね。グリーン電力証書というものがあって、これだけ自然再生エネルギーとかで、環境に負荷をかけない電気を使ったという場合は、それを証書になって後で使えるというものがあるのですが、神奈川独自というものは特にはないですよね。埼玉県、東京都で独自の排出権の買取制度があるのですか。

**(参加者)**

東京都も排出量取引の枠組みができていて、埼玉県も来年度からということですが、電力証書に関しては独自の枠組みではないと思います。

**(知事)**

CO2の話ですよね。

**(環境農政局長)**

その点ですが、神奈川は、昨年度から企業等に計画書制度ということでCO2の排出量の削減についての計画を出していただく。これを、どういう取組をしているかという形でお示ししていただく。それを社会的に公表するという取組をさせていただいております。

先ほど、お話があったように、産業構造が、かなり、東京・埼玉と神奈川は異なりまして、特に製造業が多いというところに大きな違いがございます。あと、製鉄所があるといったところに違いがありますので、そういった状況を踏まえて神奈川の取組をさせていただいております。

ただし、排出量取引については、ご指摘のように全国共通であるべきということで県としては、国に要望させていただいているという状況でございます。

**(知事)**

ツイッターでも、いろいろご意見をいただいておりますので、ご紹介したいと思います。

「市民ファンド」による太陽電池パネルの設置は、日当たりの良くない家に住んでいらっしゃる方々や集合住宅に住んでいらっしゃる方々も出資できるため、太陽光発電の裾野を広げると同時に、不公平感解消にも極めて有効と思います。強力に進めてください。

ドイツでは、「市民ファンド」による太陽電池パネルの設置は、安全で高利回りの投資として人気です。その結果、世界一の太陽電池パネルの設置数につながりました。雇用拡大にもつながります。

この雇用拡大ということは、私は重要な要素と思っております。これはただ単にエネルギー革命といって、エネルギーの仕組みを変えるというだけではなくて、ここには、必ず新しい産業とか、経済活性化になるエンジンが回ってくると思っております。だから神奈川における設置業者の皆さんにはその恩恵が特に回っていくように工夫したいと思っております。だから、それによって雇用も拡大していくということがあって、はじめて、エネルギーが変わっていく革命の中で皆が享受できるという形にしていくことが大事だと思っております。

いよいよ時間も迫って参りました。はい、どうぞ。

**(参加者)**

先ほどから川崎、川崎という話が出ていますが、私は、川崎市幸区に住むニッタと申しま

す。私は、川崎市地球温暖化防止活動推進員を務めておりまして、あと、川崎市の中で環境に関わる会議の委員もやっております。それで2点ほど挙げさせていただきます。

先ほど、プロモーションの話があったと思うのですが、先ほど、知事からも川崎、川崎と出てきましたけれど、私も実は川崎に住んで2年しか経っていないので、私も川崎をよく知っているわけではないのですが、太陽熱の施設としてフロンターレの施設があったり、臨海の部分には様々の発電設備があったり、最近で言いますと、子ども向けではありますけれど、エコ暮らし未来館というものが浮島にできまして、そういった、非常にエネルギーですとか、「省エネ」「創エネ」「蓄エネ」の普及啓発につきましましては、川崎という土地はいろいろなものが揃っていると感じている部分ではあります。神奈川発とか、川崎発といえますか、そういった意味で、最先端を走っているという感じがございますので、そういったものをプロモーションで、先ほど工場の方に太陽光を付けて特区というものではないのですが、一つの動きとしてはよろしいと思っておりますので、川崎市民といえますか、もっともっと連携をして活かす形でプロモーション等を全国に対して進めていただければというのが1点。

それから、川崎の方の話なのですが、太陽光の補助金、太陽熱の補助金があるのですが、神奈川全体を見てみますと、東京ですとか、埼玉と、パッと見ですけれど、助成金とか補助金が、比べるとちょっと弱いのかなと個人的には気がしています。補助金がいつか消えるという話があったのですが、太陽光にこれだけ力を入れているということがあるのでしょうけれども、それ以外の部分、太陽熱なんて、実際、川崎で100件募集して5件しか正直集まっていない。それは様々な問題があると思うのですが、そういった助成的なものを、もう少し、ソーラーバンク構想と一緒に進めていただければと思っております。

### (知事)

川崎のことについては、私もトップセールスで海外に行ったときも真っ先に言っている。川崎はすごい、新しいエネルギーのショーウィンドウになっている、と海外だけでなく、日本であちこちに行っているときに言っている。それは自慢していきたいところだと思っております。

補助金に関してはなかなか厳しいですね。県の財政状況は、私も覗くとゾッとするような状況でありまして、それに頼ることはなかなかうまくいかないという状況ですから、なるべく早く「市民ファンド」という形で民間のお金が回っていくような仕組みを早くスタートさせたいと思っております。

手を挙げている方々全員にあてることができなくて申し訳ありません。時間も来てまいりましたので、ここで終わりにさせていただきたいと思っております。ご質問を受け付けられなかった方には申し訳ございませんでした。

このエネルギー革命ということが動き始めたという中で、本当に続けていかないと、一時の熱で終わってしまったら駄目ですから。要するに計画停電が起きなかったら、まあいいやという形になってしまうと、ここでエネルギーが止まってしまうと、大きなしっぺ返しがやってまいりますから、皆さん、本当に危機感を持って、新しいエネルギー体系を作っていくという中で、自分が何ができるか、「創エネ」「省エネ」「蓄エネ」でいろいろなことができると思いますから、また、新しい情報があったらどんどん教えてください。

また、この一連のシリーズの「対話の広場」、エネルギー版は一応最後にしますけれど、また、皆さんのニーズがありましたら、いつでも開きたいと思っておりますし、こういう形でやる「対話の広場」というのは、今後もいろいろなテーマで続けていきますので、今後とも

よろしくお願ひします。今日は長い時間ありがとうございました。